

身体名詞と その用法

日本語・英語・
フランス語・
中国語・韓国語

外国語では
どうなるんだろう？



頭を
冷やす

顔が揃う

内容

「頭」「顔」「首」「胸」「腹」「背」「腰」それから「手」「足」など、身体の部分を表す語はどの言語にもある基礎語の中の基礎語で、比喩的用法が多いのが特徴の一つです。比喩的用法というのは、日本語の「頭」が「鼻の頭」では「鼻の先端部」を指し、「頭がいい」では「脳の働きがよい」ことを意味するといった用法のことです。このような語は、また、それをを用いた慣用表現も豊かです。日本語で「頭が固い」「頭が古い」などと言う時の「頭」は「考え、考え方」のことでしょう。「頭を悩ます」「頭を抱える」などは「悩み」の表現、「頭に来る」「頭に血が上る」「頭を冷やす」などは「怒り、興奮」の表現ですね。

一方、「顔」には個人を特定する特徴があることから「顔を見せる」「顔が揃う」、その表情に態度や体面が表われることから「大きな顔をする」「顔向けができない」、さらには、〈知名度・影響力・組織や国を代表する対外的存在〉などを表す「顔が広い」「顔が利く」「日本の顔」などという表現まであります。

その言葉を使ってきた人々の感覚や感情、考え方を表すこのような語と表現。いったい、外国語ではどうなっているのでしょうか。五つの言語を比較して、その言語に表れた民族の文化を考えます。

日時 平成27年 **2月14日(土)**
13:00~15:00

定員 **70名(事前申込不要)**

会場 **聖徳大学10号館12階**
千葉県松戸市松戸1169
JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車、東口徒歩1分

後援 松戸市教育委員会、市川市教育委員会、
柏市教育委員会、取手市教育委員会

パネラー

林 史典

(聖徳大学言語文化研究所長)

ピーター ヴィンセント

(聖徳大学語学教育センター教授)

アラン メドウズ

(聖徳大学語学教育センター准教授)

クリスティアン ブティエ

(聖徳大学人文学部英米文化学科准教授)

李 哲権

(聖徳大学文学部文学科准教授)

森 貞美

(聖徳大学児童学部児童学科准教授)

司会

北村 弘明

(聖徳大学言語文化研究所教授)

参加費 無料

お問い合わせ ▶▶▶

聖徳大学言語文化研究所(知財戦略課)

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550

電話: 047-365-1111 (大代表)

<http://www.seitoku.ac.jp/chizai/>

